

船舶事故等調査報告書

平成23年9月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011那第19号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成23年4月11日 07時35分ごろ	
発生場所	鹿児島県奄美市 ^{かさり} 笠利町 ^{あかきな} 赤木名港 笠利町 ^{ひょうぞうだけ} 表 蔵岳山頂から真方位021° 1.1海里付近 (概位 北緯28° 27.5′ 東経129° 39.8′)	
事故等調査の経過	平成23年4月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	船種船名、総トン数 油送船 第二十八 ^{あさひ} 旭丸、713トン 船舶番号、船舶所有者等 132130、旭海運有限会社	
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	船底部に擦過傷	
事故等の経過	本船は、船長ほか7人が乗り組み、船首約2.5m、船尾約3.6mの喫水で赤木名港前肥田 ^{まへひだ} 岸壁に向けて速力を約8ノットとして南進中、平成23年4月11日07時35分ごろ、船底が浅瀬に乗り揚げた。 船長は、浅瀬付近を航行中に雨合羽を着ながら操船を行っていた。 本船は、バラスト水を排出して自力で離礁した。	
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北北西、風力 2 海象：潮汐 上げ潮の中央期	
その他の事項	船長は、赤木名港への入港は初めてであった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、赤木名港の浅瀬付近を航行中、船長が雨合羽を着ながら操船を行っていたことから、浅瀬に接近して乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、赤木名港の浅瀬付近を航行中、船長が、雨合羽を着ながら操船を行っていたため、浅瀬に接近して乗り揚げたものと考えられる。	